

「移民・移動と摩擦～日本とヨーロッパにおける政治的・文化的境界の検証」

イタリア・ナポリ海外研修プログラム

【テーマと目標】

EU圏、特に地中海地域における人々の移動は、近年のアフリカ、アラブ諸国の状況を踏まえ、政治、社会、文化に大きな影響を与え続けている。ギリシャ、ローマ時代を経て、ヨーロッパ文明の中で重要な役割を果たしてきた港湾都市、ナポリにおいて、ヨーロッパ文化・地中海文化の根源を見つめ、さらに MENA (Middle East and North Africa) 地域、アジアの文化境界とそのアイデンティティーを考えるためのフィールドワーク、合同ゼミ等を行なう。

【日程】

2015年9月中旬

渡航計画は以下の日程の前後に、各自の研究計画を加えて決定する。事前学習時にナポリ前後の研修計画の可能性などについてもアドバイスを。事前に講義と演習、帰国後には報告書の執筆を行なう。成果報告会も予定。

【担当(企画・指導・引率)教員】

林良子(国際文化科学研究科)(代表) rhayashi@kobe-u.ac.jp (研究室:B309)

小笠原博毅(同上) hiroki@kobe-u.ac.jp (研究室:E316)

坂井一成(同上) kazu@harbor.kobe-u.ac.jp (研究室:E407)

【募集人数】

5～10名程度(国際文化学部、国際文化科学研究科博士前期課程所属の正規学生)

【経費関係】

基準を満たした場合には選考により JASSO からの奨学金が支給されます(一律8万円の予定) + 自費負担。長期留学前に参加することも可能です。ただし、留学期間が重ならないこと、2015年前期に在学し、参加決定後履修届を出すことなどが条件となります。

【研修先での使用言語】

英語・(可能な場合には)イタリア語

【準備と流れ—(1)については学生自身で行う】

(1)生活面

- 航空券の手配、宿の手配
- 留学生危機管理サービス(OSSMA)登録、海外旅行保険加入

(2)学習面

- 事前講義への参加、課題、研究発表の準備
- 参加学生は、ナポリ東洋大学との合同ゼミ(発表は英語またはイタリア語、質疑は適宜日本語)、プローチダ島ワークショップ学生セッション(発表は英語)のいずれかで研究発表を行ないます。
- 帰国後に報告書を提出

【プログラム】〔予定、今後若干の変更があります〕

2015年

(各自の計画に基づいてフィールドワークを行ない9月13日までにナポリに集合)

9月14-15日 ナポリに関する講義、フィールドワーク(担当:小笠原先生、ナポリ東洋大学ブファ先生)

9月16日 ナポリ東洋大学日本学専攻学生との学生交流会(担当:林先生、ナポリ東洋大学ランナ先生、デマ
イオ先生)

9月18-19日 プローチダ島国際ワークショップ(17日、18日泊予定:18日昼~19日昼ごろまで)

ナポリ東洋大学から6~7名の教員および学生、神戸大学国際文化学部からも数名の教員(参加者未定)が
参加し、いくつかのセッションに分かれて勉強会を行なう。学生セッションも設ける。現在、国際政治、地中海文
化、メディア論、アフリカ学、日本学等の教員の参加が予定されている。

(9月19日はナポリの守護聖人、サン・ジェンナーロの祭。各自祭り見学や、ポンペイ、アマルフィ等見学)

9月21日ごろ ナポリフェデリコ2世大学人文学部による、遺跡調査などの考古学セミナー(予定)

(各自の計画に基づいてフィールドワークを行ない帰国、または長期留学先へ)

10月中 事後報告書執筆

【今後の予定】

2015年

5月中旬: 参加者募集、決定

以上